

平岡いきものはっけん隊 隊報

季刊

湘南自然誌 Vol.2

2016

夏の
記録号

ノコギリクワガタ♀

カナブン

7月の南足柄市にて

〈巻頭特集〉

「はっけん隊」世話人 會田重道氏

『あいだ先生のチョウ教室』



P1 はっけん隊について

P2-4 巻頭特集
『あいだ先生のチョウ教室』

P5-8 2016.6-8
生き物発見記録

P9 セミの羽化レポート ほか

P10-12 はっけん隊活動報告

P13 はっけん隊のお約束

P14 ふしぎはっけんコラム
第2回 彩雲のふしぎ ほか

P15 絵画投稿コーナー
おえかきひろば

画：にしべ そうたくん「ぼくがみたなつのむし」

平岡いきものはっけん隊



【「ひらおか生き物はっけん隊」と「湘南自然誌」について】

「ひらおか生き物はっけん隊」(略称:はっけん隊)は、平岡幼稚園の在園児、卒園生及びその家族と、教職員と有識者による顧問等で構成されています。発足は平成28年3月。あつまりやイベントへの参加義務はなく、隊員それぞれができる範囲で自然と関わる機会を作っています。

「湘南自然誌」は、隊の活動報告やみんなが見つけた生き物を記録に残していく隊報です。また、毎号特集として自然に造詣の深い先生方の対談やコラムを掲載し、より深く自然を知っていくための情報誌でもあります。

身近な自然を見つめなおし、地域の自然環境がより良くなっていくように、みんなで隊の活動を盛り上げていきましょう!

平岡いきものはっけん隊・呼びかけ人 平岡幼稚園副園長/堀田 佳之介

【平岡いきものはっけん隊の活動目的】

① 地域の自然をまもるために

私たちのいのちと暮らしは“自然の恵み(生態系サービス)”を受けることにより成り立っており、“地域の生物多様性”はそれを支える基盤です。豊かな自然の恵みを未来の世代まで永続的に受け続けるには、地域の生物多様性を守りつつ、より豊かなものとしていかななくてはなりません。そのためには、私たちが地域の自然を知り、理解していくことが必要です。この隊は、園児・保護者・教職員をはじめ多くの人と一緒に身近な自然に親しみながら、地域の自然を皆の力で守っていくことを目的とします。

② 園児の教育のために

幼稚園教育要領や学校教育法にも、自然環境への関わり必要性が記されているように、子どもの健全な心身の発達・成長には、幼少期に多様な自然と関わり、多様な体験活動をしていくことが必須です。しかし、現代社会において子どもたちの自然体験は質・量ともに低下の一途を辿っています。この隊は、次代を担う子どもたちが、さまざまな自然とのふれあい活動をとおして、自然に親しみながら、豊かな心(感性・人間性)と健やかな身体の育成をはかれるようにしていくことを目的とします。



第1回
身近なチョウを探してみよう

あいだ先生の チョウ教室



2016年夏号の特集は、「平岡いきものはっけん隊」の世話人に就任して下さった會田重道さんに執筆していただきました。會田さんは大磯のチョウ類を中心に研究しており、平岡幼稚園にも定期的に訪れて園内で見られるチョウの記録を取って下さっています。

今回の特集は『會田先生のチョウ教室』と題して、引き続き次号以降もコラムとして連載予定です。

『あいだ先生のチョウ教室』

第1回 ～身近なチョウを探してみよう～

チョウは鱗翅目（チョウ目とも言います）という分類に属していますが、この仲間には蛾類も含まれます。日本には約250種類のチョウが知られています。因みに蛾類は約5000種がいると言われていいますので、それに比べればチョウの種類数は少ないです。

現在平塚や大磯周辺で見られるチョウは、ほぼ62種類くらいであると思われます。ただし、これらのチョウが毎年すべて見られることは限らず、その年の天候や天敵等の発生左右されて、見られる種類や個体数が増減します。

1. チョウが多く見られる場所を探す

これらのチョウの中で、みなさんのお住まいの周辺などの身近に比較的多く見られる種類について、ここに紹介したいと思います。

●庭、小さな草原、街路樹、公園など住まいの近くでも見られるチョウ
アゲハ（ナミアゲハ）、アオスジアゲハ、クロアゲハ、

ひらおか生き物はっけん隊世話人

あいだ しげみち
會田 重道 先生

1942年東京生まれ。小学校の6年生まで埼玉県大宮市（現さいたま市）に住み、幼少の頃より毎日草原や雑木林周辺で沢山の昆虫と接する。最初にベニシジミを見て、その美しさにひかれチョウが大好きになる。中学校からは東京に居を移したが、チョウとの付き合いを続け、東京農工大学農学部で農業昆虫学を専攻、チョウの研究を行う。その後平塚に住み、農協全国組織の研究所で農作物の害虫研究と農家指導の仕事に従事し全国を巡る。1984年から大磯町に居を移し、2013年に退職、本格的に大磯丘陵のチョウの調査と写真撮影を始める。日本鱗翅学会、日本チョウ類保全協会、相模の蝶を語る会各会員。著書に写真集「大磯の蝶」（星槎大学出版部）がある。

ナガサキアゲハ、アカボシゴマダラ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ヒメウラナミジャノメ、ツマグロヒョウモン、イチモンジセセリ、チャバネセセリなど。

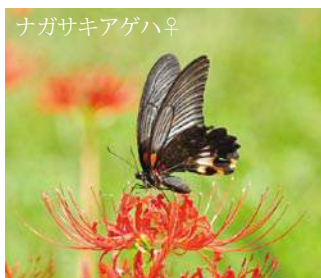


アオスジアゲハ

ナガサキアゲハ、アカボシゴマダラ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ヒメウラナミジャノメ、ツマグロヒョウモン、イチモンジセセリ、チャバネセセリなど。



アゲハ (ナミアゲハ)♂



ナガサキアゲハ♀



ヤマトシジミ♂



イチモンジセセリ

● 野原、川原、畑などの草原の周辺
(日当たりがよい場所) で見られるチョウ

キアゲハ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ヒメジャノメ、ツバメシジミ、アカタテハ、キタテハ、ヒメアカタテハ、ウラナミシジミなど。



モンシロチョウ♂



チョウの調査風景
～運動場にて



キタキチョウ♂



キタテハ

● 林などの周辺 (林縁) で見られるチョウ

ジャコウアゲハ、モンキアゲハ、カラスアゲハ、テングチョウ、ヒカゲチョウ、クロヒカゲ、コジャノメ、サトキマダラヒカゲ、ウラギンシジミ、ムラサキシジミ、ムラサキツバメ、ルリシジミ、ルリタテハ、コムスジ、イチモンジチョウ、ダイミョウセセリなど。



ウラギンシジミ♂



テングチョウ



モンキアゲハ♂



イチモンジチョウ

ここではみなさんがチョウに出会う機会が比較的多い場所と種類を紹介しました。このように場所により見られる種類が異なるのは、チョウの中でも日が当たる場所を好む種類と、日陰を好む種類がいるからなのです。翅の色が白っぽい種類は日当たりが良い明るい場所を好むことが多いようです。また、黒っぽい種類は、陽が当たる明るい場所よりやや暗い場所 (林縁など) を好む傾向があります。しかしながら、そのチョウの幼虫が食べる植物がどのような場所に生えているのかも、実は大きな要素となっているようです。

2. 主なチョウの種類と行動

上記のことをもう少し具体的に紹介します。褐色の翅はねを持ち、翅はねに大きな眼状の紋をもったジャノメチョウの仲間の多くは、森林の中の暗い環境を好み、大半が暗い場所で活動するグループです。ジャノメチョウ類の幼虫は主にイネ科やカヤツリグサ科の植物を食べます。

黄色い地に黒い紋をもったアゲハ（ナミアゲハ）やキアゲハは、主に明るい草原などを飛びます。しかし、アゲハは幼虫の食樹がミカン科の植物であるため、やや樹木が多い場所を飛びます。キアゲハ幼虫はニンジン、セリ、ミツバなどのセリ科の植物を食べます。そのため、親のキアゲハはこれらの植物が多く生えている畑の上などをよく飛びます。

シジミチョウの仲間では、ベニシジミは畑の周辺や草原に生えているスイバ、ギシギシなどのタデ科の植物を幼虫が食べますので、明るい畑周辺や草原に多いチョウです。一方、幼虫がカン類やコナラなどのブナ科の植物を食べるムラサキシジミは、主に林の中のやや暗い場所で活動します。

このように翅はねの色もある面で生息場所の重要な要素を担っていますが、チョウの行動を知るには、幼虫の餌となる植物のことを知ることも重要です。

（第1回終了）



チョウは種類ごとに生息場所が違うということがよく分かるコラムでした。次号『あいだ先生のチョウ教室』第2回のテーマは「チョウの分類を知ろう！」の予定です。ご期待下さい。

ジャコウアゲハ♂

本特集欄のチョウの写真はすべて會田先生が撮影しています。

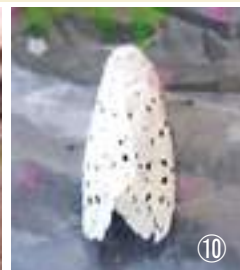
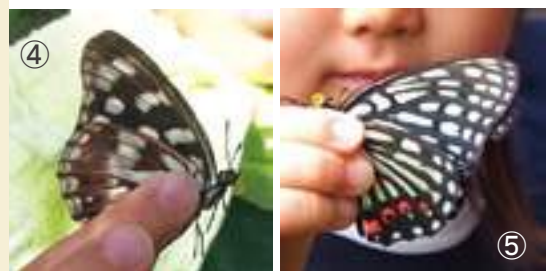
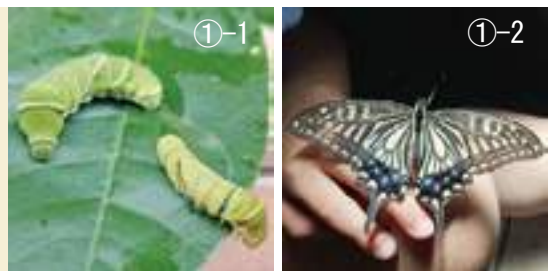
2016年6月～8月 隊員のみんが集めた 生き物の記録

みんなで湘南地域を中心とした
生き物の記録を残し、
豊かな自然環境の保全に
役立てていきましょう。

- 註1) 紙面の都合上、記録された月までを掲載しています。また、本欄に掲載しきれない記録が多数あるため、別途『別冊・湘南自然誌』を発行し、そちらを正式な発表として扱います。なお、重要な記録については、専門誌に投稿します。
- 註2) 2016年6-8月に記録された生き物を掲載していますが、この期間に報告を受けたものや、(未同定だったもので)種が判明したものについては、この期間外の記録(※印)も一部含まれています。
- 註3) ここに掲載されている記録は、難しいものははっけん隊名誉顧問の岸一弘さんに同定して頂いております。

◇チョウ目

- ナミアゲハ**：平塚市日向岡，※4月，浜野紗綾花・綾乃
→庭で羽化したものの、寒さでかたまる。
平塚市中原(山椒の木)，6月，新井柚稀(写①-1)
→同個体が7日後に蛹になりました
平塚市中原(チェリーセージで吸蜜)，6月，新井柚稀(写①-2)
平塚市岡崎(平岡幼稚園)，8月，きく組
- クロアゲハ**：平塚市岡崎(平岡幼稚園)，8月，いちご組(写②)
- ジャコウアゲハ**：平塚市岡崎(平岡幼稚園)，6月，堀田佳之介
- ツバメシジミ**：平塚市岡崎(平岡幼稚園)，6月，堀田佳之介
- クロコノマチョウ産卵**：平塚市土屋，6月，堀田佳之介(写③)
- ゴマダラチョウ**：平塚市大原，8月，西澤陽(写④)
- アカボシゴマダラ**：平塚市岡崎(平岡幼稚園)，8月，いちご組(写⑤)
→2000年前後に日本に移入されてしまい、各地で増えています。外来生物法により要注意外来生物に指定。(堀田)
- アサギマダラ**：南足柄市塚原，6月，堀田来佳(写⑥)
- サトキマダラヒカゲ**：平塚市大原，8月，西澤陽(写⑦)
- テングチョウ**：平塚市撫子原，7月，堀田佳之介(写⑧)
- チャバネセセリ**：平塚市岡崎(平岡幼稚園)，8月，富岡誠一(写.P11 右上)
→意外にも幼稚園初めての記録となりました。
- シマケンモン幼虫?**：平塚市南金目，6月，新井柚稀(写⑨)
→お散歩中に見つけました
- キハラ?アカハラ?ゴマダラヒトリ**：平塚市岡崎，7月，新井柚稀(写⑩)
→腹部の色を確認し忘れてしまいどちらか判別不能です。すみません…(堀田)
- フクラスズメ幼虫?**：南足柄市(足柄ふれあいの村)，7月，新井柚稀(写⑪)
- コエビガラスズメ**：平塚市片岡，7月，大澤康子
- セスジスズメ幼虫**：平塚市片岡，7月，大澤康子(写⑫)
- オオミズアオ**：めぐみが丘，8月，橋本蓮生愛



◇バッタ目

- ヤブキリ**：平塚市めぐみが丘，6月，平川圭（写⑬）
→夕方お花に水をあげていたら発見しました。
- クサキリ**：平塚市大原，8月，セミのぬけがら合同調査（写⑭）
平塚市岡崎（平岡幼稚園），8月，いちご組
- ショウリョウバッタ**交尾：平塚市岡崎（平岡幼稚園），8月，西澤陽（写⑮）
- トノサマバッタ**：平塚市岡崎（平岡幼稚園），7月，小林優樹（写⑯）
平塚市代官町（OSC 湘南敷地内），8月，橋本蓮生愛
- オンブバッタ**：平塚市岡崎（平岡幼稚園），8月，たんぼぼ組（写⑰）

◇ナナフシ目

- ナナフシ（ナナフシモドキ）**：平塚市大原，西澤陽（写⑱）
- ニホントビナナフシ**：平塚市土屋，8月，こども環境教室里山編（写⑲）



◇トンボ目

- ウスバキトンボ**：平塚市中原，7月，新井柚稀（写⑳）
平塚市めぐみが丘，8月，平川圭
平塚市岡崎（平岡幼稚園），8月，れんげ組
- オオシオカラトンボ**：平塚市岡崎（平岡幼稚園），6月，府川茜・西澤陽・三木絢翔・きく組・たんぼぼ組・ゆり組・ちゅうりっぷ組・れんげ組（写㉑）
- コオニヤンマ**：平塚市岡崎（平岡幼稚園），6月，堀田佳之介（写㉒）
- マルタンヤンマ**産卵：平塚市岡崎（平岡幼稚園），6-7月，堀田佳之介（写㉓）
- ヤブヤンマ**：平塚市岡崎（平岡幼稚園），8月，堀田佳之介（写㉔）
- オオアイトトンボ**：平塚市岡崎（平岡幼稚園），8月，きく組・ちゅうりっぷ組（写㉕）



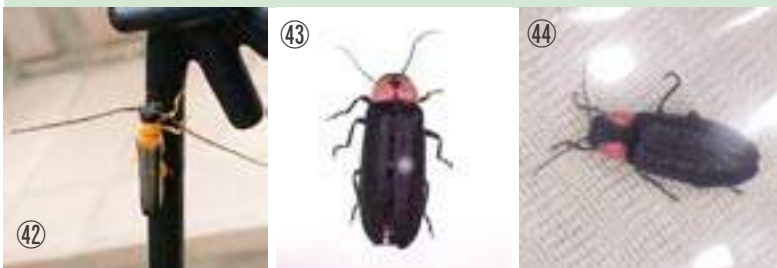
◇カメムシ目

- アブラゼミ**：平塚市岡崎（平岡幼稚園），8月，ゆり組・もも組・ちゅうりっぷ組
（幼虫）南足柄市（足柄ふれあいの村），7月，新井柚稀
→翌朝には、ぬけがらになっていました。（新井）
（羽化）平塚市片岡，7月，大澤康子（写㉖）
- ヒグラシ**：南足柄市（足柄ふれあいの村），7月，新井柚稀（写㉗）
- ミンミンゼミ**：平塚市岡崎（平岡幼稚園），8月，ゆり組・ちゅうりっぷ組（写㉘）
- ヒメハルゼミ**羽化殻：箱根町，7月，三好智和・堀田佳之介（写㉙）
- ビロードサシガメ**：平塚市中原，7月，新井柚稀（写㉚）
- イトカメムシ**：平塚市めぐみが丘，7月，平川圭（写㉛）
平塚市岡崎（平岡幼稚園），6月，堀田佳之介
- キバラヘリカメムシ**：平塚市片岡，7月，大澤康子（写㉜-1）
平塚市岡崎（平岡幼稚園），6月，堀田佳之介（写㉜-2）
- キマダラカメムシ**幼虫：平塚市東八幡，8月，堀田佳之介（写㉝）
→本州で記録されているものは移入種（外来種）のようです。（岸）
- シロヘリカメムシ**：南足柄市塚原，6月，堀田佳之介



◇コウチュウ目

- ナミテントウ**：平塚市岡崎 (平岡幼稚園園庭), ※5月, 橋本蓮生愛 (写③④)
ハラグロオオテントウ幼虫：平塚市岡崎 (平岡幼稚園), ※5月, 堀田佳之介
 →日本最大級のテントウムシ。
コフキコガネ：平塚市岡崎 (平岡幼稚園), 6月, 西澤陽
 平塚市岡崎 (平岡幼稚園), 7月, 古尾谷恋華
オオコフキコガネ：平塚市岡崎 (平岡幼稚園), 7月, 伊藤昇冨 (写③⑤)
クロコガネ：平塚市岡崎 (平岡幼稚園), 6月, 三木絢翔 (写③⑥)
 平塚市岡崎 (平岡幼稚園), 6月, 行本壮志
コクワガタ：平塚市公所, 6月, 池田晴紀 (写③⑦)
 →自宅のベランダで死んでいました。(池田)
クロカナブン：平塚市真田, 8月, 堀田心結・佳之介 (写③⑧)
 →近年少なくなっているようです。(堀田)
カナブン：平塚市真田, 8月, 堀田心結・佳之介 (写③⑨)
ヤマトタマムシ：伊勢原市大住台, 8月, 西部浩美・颯太・光咲
 →東名を渡る橋の階段にて。去年も同じ場所で見かけました。(西部)
 平塚市岡崎 (岡崎神社), 7月, 黒崎結斗・大智
 平塚市岡崎 (平岡幼稚園), 7月, 小山歩夢 (写③⑩)
 →県レッドデータブックでは要注意種
ゴマダラカミキリ：伊勢原市大住台, 7月, 西部啓和・浩美・颯太・光咲 (写④①) →自宅前に飛んできました
 平塚市中原, 7月, 新井柚稀
 平塚市岡崎 (平岡幼稚園), 6月, 平岡幼稚園園児
 平塚市大原, 7月, 堀田佳之介
キイロトラカミキリ：平塚市土屋, ※5月, 小山歩夢・瑞穂 (写④②)
 →昔にくらべて数が少なくなっているようです。(岸)
 →前号に記載し忘れてしまいました。申し訳ございませんでした。(堀田)
シラハタリンゴカミキリ：平塚市めぐみが丘, 平川圭 (写④③)
ヒレルクチブトゾウムシ：平塚市岡崎 (平岡幼稚園), 6月, 山本辰未
マルガタゴミムシの一種：平塚市岡崎 (平岡幼稚園), 7月, 伊藤由乃
ヒメマイマイカブリ：平塚市土屋, 6月, 園外保育 (年長児)
ゲンジボタル：平塚市土屋, 6月, 小山歩夢 (写④④)
ヘイケボタル：平塚市土屋, 6月, ヘイケボタル観察会 (写④⑤)
コガムシ：平塚市岡崎 (平岡幼稚園), 6月, 平岡ビオトープ親子観察会
 →県レッドデータブックでは準絶滅危惧
キベリヒラタガムシ：平塚市岡崎 (平岡幼稚園), 6月, 平岡ビオトープ親子観察会



◇ハチ目

- チュウレンジバチ**幼虫：平塚市中原 (バラ類の葉), 7月, 新井柚稀 (写④⑤)
セイボウの一種：平塚市土屋, 7月, 堀田ゆら・来佳・佳之介 (写④⑥)
 →宝石のように綺麗なハチでした。種名を調べるために採集しようと思ったのですが、逃げられてしまいました。(堀田)

◇ハエ目

- アメリカミズアブ**：平塚市岡崎 (平岡幼稚園), 7月, 向江慶人



- 會田重道氏による幼稚園のチョウの調査結果
- <7月2日>-----
- アオスジアゲハ, 2 exs.
 - ベニシジミ, 1 ex.
 - ヒメジャノメ, 1 ex.
 - クロアゲハ, 2 exs.
 - ヤマトシジミ, 5 ♂
 - ヒカゲチョウ, 2 exs.
 - アゲハ, 2 exs.
 - ヒメウラナミジャノメ, 1 ex.
- <8月9日>-----
- アゲハ, 4 exs.
 - アオスジアゲハ, 1 ex.
 - ヒカゲチョウ, 3 exs.
 - ヒメウラナミジャノメ, 2 exs.
 - ヤマトシジミ, 5 exs.
 - ムラサキツバメ, 2 exs.
 - ウラギンシジミ, 1 ex.
 - ツマグロヒョウモン, 1 ♀
 - クロアゲハ, 1 ex.
 - ヒメジャノメ, 1 ex.
 - イチモンジセセリ, 6 exs.
 - ルリシジミ, 1 ♀
 - ムラサキシジミ, 1 ex.
- <8月23日>-----
- ヒメウラナミジャノメ, 2 exs.
 - キタキチョウ♂, 1 ex.
 - クロアゲハ, 1 ex.
 - ヤマトシジミ♂, 6 exs.
 - ツマグロヒョウモン♂, 1 ex.
- <8月30日>-----
- アゲハ, 1 ex.
 - ウラギンシジミ, 1 ex.
 - ツマグロヒョウモン, 2 ♂
 - アゲハ終齢幼虫, 1 ex.
 - ヒメウラナミジャノメ, 1 ex.
 - イチモンジセセリ, 1 ex.
 - ヤマトシジミ, 1 ♂
 - アゲハ3 齢幼虫, 1 ex.

- 6～8月に平岡ビオトープで集めたトンボのぬけがら集計結果
- アキアカネ** 2exs. (こんちゅう池)
 - オニヤンマ** 12♂ 13♀ (こんちゅう池&小川)
 - オオアオイトトンボ** 281♂ 288♀ (かに池・むしむし池・こんちゅう池)
 - オオシオカラトンボ** 782exs. (園庭池・原っぱ池・かに池・むしむし池・こんちゅう池)
- 《4月からの累計は、9種1778個になりました。》

◇ムカデ綱ゲジ目

オオゲジ：大磯町東小磯（私塾まきば），6月，吉田結陽

◇クモ綱ザトウムシ目

ザトウムシの一種：厚木市中萩野（あつぎこどものもり），6月，吉田結陽（写47）
→胴体が小さくて足の長いクモのように見えました。

◇ウズムシ綱ウズムシ目

ミズジコウガイビル？：平塚市めぐみが丘，6月，平川圭（写48）
→子どもと遊んでいたら野球ボールにウニョウニョしてヌルヌルの虫が付いてきました。細さは爪楊枝より細かったです。（平川）
→かなり大きくなるようであれば、外来種のオオミズジコウガイビルかもしれません。ヤマビルのように吸血性ではありません。（岸）
クロコウガイビル：平塚市めぐみが丘，7月，平川圭（写49）
→朝プランターをどけて移動させようとしたら、プランターの下に大きなウニョウニョ虫を発見しました。（平川）
→ヤマビルのように吸血性ではありません。（岸）

◇甲殻類

ホウネンエビ：平塚市寺田縄，7月，堀田來佳・佳之介
アメリカザリガニ：平塚市寺田縄，7月，堀田來佳・佳之介（写50）
→生態系被害防止外来種リスト（環境省）により、緊急対策外来種に指定されています。繁殖力が強く、何でも食べてしまうので、生態系に及ぼす影響は甚大です（本種の移入によって絶滅してしまった生き物は数知れず…）。（堀田）
サワガニ：平塚市岡崎（平岡幼稚園），8月，たんぼぼ組・ゆり組（写51）

◇両生類

アズマヒキガエル：平塚市めぐみが丘，※2015年12月，平川圭（写52）
ツチガエル：平塚市土屋，7月，堀田來佳・佳之介（写53）

◇爬虫類

ヒバカリ：平塚市日向岡，※5月，浜野紗綾花・綾乃（写54）
ニホンカナヘビ（尻尾）：平塚市岡崎（平岡幼稚園），7月，伊藤昇彦
ニホンヤモリ：伊勢原市大住台，8月，西部啓和・浩美・颯太・光咲（写55）

☆☆☆ めずらしい生き物 ☆☆☆

マエアカヒトリ：平塚市岡崎（平岡幼稚園），6月，池田晴紀（写56）
→国（環境省）レッドデータ準絶滅危惧、県レッドデータ生物調査報告書2006（以下、県RDB2006）では絶滅危惧Ⅰ類に位置付けられており、県内では激滅してしまった種です。（堀田）

ヒメサナエ：伊勢原市，6月，堀田佳之介（写57）
→神奈川県内では記録の少ない種で、その生息状況は不明なことから神奈川県レッドデータブック2006では情報不足と判定されています。伊勢原市では初記録となると思われます。（堀田）

シラホシハナノミ：東京都町田市，※5月，堀田佳之介・來佳（写58）
→発見した場所は町田市域ですが、横浜市とのほぼ市境です。神奈川県内ではあまり数は多くない種類とされています。（堀田）

クロタマムシ：平塚市，7月，堀田佳之介（写59）
→近年少なくなっている種類です。平塚市内における本種の記録が見当たらないため、初記録になると思われます。（堀田）

ニッポンハナダカバチ：平塚市，7・8月，堀田佳之介・ゆら・來佳・心結（写60）
→海浜の砂地等に営巢するハチです。県RDB2006では絶滅危惧Ⅱ類に位置付けられており、湘南海岸ではほぼ絶滅状態、現在生息が確認できるのは、三浦半島など限られた地域だけです。昔は平塚市内にも生息していたと思われるのですが、記録が残されていないため、平塚市域では初めての記録となると思われます。（堀田）

オオアメンボ：平塚市，堀田佳之介，富岡誠一（写61）
→日本最大のアメンボです。県内では減少傾向にあり、県RDBでは準絶滅危惧に位置付けられています。平塚市域では文献上の記録は残されていないようです。（堀田）



アブラゼミの羽化レポート

卒園児の佳奈恵ちゃんがアブラゼミの羽化の様子を観察してレポートしてくれました！

セミの羽化の仕方 平川佳奈恵

羽化した日：7月24日～25日

① 9:30 羽化する前

羽化する前にカーテンにしがみついてじっとしていました。色は茶色でした。



② 10:10 羽化始まる

背中と頭を出そうと頑張っ
てこきざみにふるえていた。
羽の色は緑色に見えた。



③ 10:30 体を出そうとしている

体を出してさかさにしたいせいを
ととのえようとしていました。
色が白かったです。



④ 10:40 羽をのばそうとしている

たいせいをととのえて、
羽をのばそうとしていた。
羽の色は緑と白でした。



⑤ 10:50 頑張っ て羽をのばしている

10:40より羽がのびている。
羽はちょっとくちゃくちゃしている。
羽は緑色の線があった。



⑥ 11:00 羽がとうめいになる

羽化して1時間くらいで羽がのび
て色がとうめいになっている。



⑦ 11:10 セミさんあとすこし

セミはすこしすこしとうめいにな
っている。
緑の色がとってもきれいでした。



⑧ 11:20 羽化おわり

セミは1時間20分かかって
羽化しました。
羽の色はにじ色に見えました。



⑨ 6:00 つぎの日

羽化がおわっておきたら
すごく黒くなってました。
羽は黒と白のところが
ちょっとありました。



感想

セミはこんなに時間をかけて羽化するとし
てびっくりしました。
羽化していっしょうかんで死んでしまうのを
かわいそうだと思います。

佳之介先生から補足データ

アブラゼミ幼虫1♂採集, 平塚市大原(平塚市総合公園), 24.VII.2016. 平川佳奈恵

17:00ごろ、公園内の樹木の幹を登る幼虫を発見し、自宅に持ち帰る。

明るい室内のカーテンに付けて様子を見ていたが、なかなか羽化せず、部屋が静かになった頃に羽化が始まったとのこと。

クジャクチョウ (オレンジ)



ハナアブ (みずいろ)

園児からの投稿作品



にしざわはるくんが作った折り紙作品を紹介します。

センチコガネ (ピンク) イトトンボ (うすもも)
イナゴ (むらさき) ノコギリクワガタ

ゾウムシ マイマイカブリ

ハルゼミ調査のご報告

2016年4月～6月にかけて、平岡いきものはっけん隊が中心となり神奈川県内全域を調査範囲としたハルゼミ調査を実施しました。この調査は2015年に引き続き2回目の調査となります。ハルゼミは県内では衰退著しく、見られなくなってしまった産地も多いのですが、皆様のご協力のお蔭もあり、今年もいくつかの地点でその姿を確認することができました。調査に参加して下さった皆様、ありがとうございました。

真鶴半島での合同調査では、みんなでぬけがらを探したり、羽化前の幼虫なども確認でき、貴重な体験になったことと思います。また、これまでに見つかっていなかった新産地も見つけることができました。しかし、過去に記録のあった県内の産地をいくつか回りましたが、軒並み記録が取れず、マツ林の消滅と共に姿を消してしまった可能性が高いこともわかりました。

なお、この調査の結果は、平塚市博物館研究紀要「自然と文化第40号」もしくは、日本セミの会会報「CICADA」にて発表予定です。



「ぬけがら見つけたよ！」



真鶴半島ハルゼミ調査の様子

ハイケボタル観察会

2016年6月25日(土)に園児家族29名と園職員2名の合計31名で、ハイケボタルの観察をしに平塚市土屋に行ってきました。真っ暗な湿田の農道を歩いていると、所々でハイケボタルが光りだし、その美しさに感動しながら楽しいひと時を過ごすことができました。

なお、ハイケボタルは湿地等に生息するため、各地で減っていると思われるのですが、近年の調査記録は残されていません(市域の記録は「平塚市の自然を守る会」の2009年が最後です)。この観察会で7年ぶりの生息確認ができたことは大変意義深いものとなります。また、このような豊かな自然環境が私たちの住む平塚にあることを園児他皆さんに知ってもらえたことも非常に嬉しく思います。

残された豊かな自然は決して多くはありませんが、その素晴らしさを知り、大切にしていきたいと思う人を増やしていくことができればと思っています。

最後に、この観察会の記録の詳細は、後日発行する『別冊湘南自然誌』にてご報告いたします。



ホタルの光跡



はっけん隊 活動報告

はっけん隊発足以降、数多くの生き物調査や観察会を実施することができました。隊員と関係者の皆様にご感謝申し上げます。



8月5日
平塚市虹ヶ浜にて
(クマゼミ調査)



ヨツスジ
トラカミキリ



クサキリと
コバネイナゴ



イチモンジチョウ



シュレーゲル
アオガエル
の幼体

夏休みこども環境教室 ～里山編～

開催場所の土屋里山体験フィールドは、里山と谷戸が組み合わせられており、多種多様な生きものが見られる場所です。当日見られた生き物の記録は、主催の平塚市環境政策課より本誌に提供していただきましたので、詳細は後日発行する別冊にてご報告いたします。

生き物探しのほかにも、竹などを使った工作も行いました。

(2016年8月6日(土)実施)



2枚の布を3種類のライトで照らしました

ライトトラップ観察会

2016年7月2日(土)、土屋里山体験フィールドにて、はっけん隊名誉顧問の岸一弘先生、日本鱗翅学会の會田重道先生をお招きしてライトトラップ観察会を実施しました。当日は親子26名の参加があり、みなさんでライトを囲んで集まってくる生き物を観察しました。

思ったよりも生き物の集まりが悪く、岸先生も首をかきあげる展開でしたが、カブトムシほか様々な種が観察でき、子どもたちが目を輝かせる場面も多数ありました。お手伝いいただいた「里山をよみがえらせる会」の荒井会長に感謝申し上げます。なお、本観察会の記録録種等の詳細は、後日発行予定の別冊に発表いたします。



アオゴミムシ属の一種 金属光沢があり綺麗です
カブトムシはこの1匹だけ…
アゲハモドキ 蝶に見えますが蛾です

茅ヶ崎里山公園自然観察会

平岡いきものはっけん隊の有志の皆さんで、茅ヶ崎野外自然史博物館(以下、野外博)主催の茅ヶ崎里山公園自然観察会(2016年7月30日(土)「夏の花・夏の虫」、2016年8月27日(土)「夜の鳴く虫観察会」)に参加してきました。

茅ヶ崎里山公園は、茅ヶ崎市最大の谷戸「柳谷戸」がまるごと公園になっており、湘南地域の豊かな自然が残る場所です。

はっけん隊名誉顧問であり、野外博の顧問でもある岸一弘先生に、様々な生き物を解説してもらいながら、みんなで生き物探しをしながら公園内を散策しました。

次回の観察会は11月6日(日)、テーマ「秋色に染まる動植物」が開催されます。また日にちが近くなりましたら、参加希望を取りますので、よろしく願いいたします。



「カブトムシ♂♀を捕まえたよ！」(7/30)

8/27は小雨にも関わらずたくさんの方が参加して下さいました!



8月24日
幼稚園のヤブガラシグリーンカーテンに
集まるチャバネセセリ

平塚市とその周辺地域の セミのぬけがら調査について

平岡幼稚園で平塚市内のセミのぬけがらを調べ始めて3年目になりますが、2016年の調査も無事終わりました。今年は、8月中旬から台風が次々と関東地方に接近(上陸)するなど、思ったように調査が進まなかったものと思われますが、園児ほか皆さまの協力のもと、たくさんのぬけがらを集めることができました。ご協力ありがとうございました。

なお、調査の結果は、平塚市博物館研究報告「自然と文化39号(2017年3月刊行予定)」に投稿します。(まだお手元に採集したぬけがらがございましたら、平岡幼稚園までお願いいたします。)



「クマゼミのぬけがらって大きいね!」

「わたしも見つけたよ♡」

トンボと遊ぼう平塚 in 土屋里山体験フィールド

“トンボと遊ぼう平塚”は、平岡幼稚園等が主催する「トンボの棲む街づくり運動」のイベントです。当日は、ヤブヤンマ・カトリヤンマ・ギンヤンマ・クロスジギンヤンマ・オニヤンマ等12種類のトンボが見つかりました。動きの速いトンボ類は、捕まえるのが難しかったのですが、みんな夢中になって網を振って楽しみました!(2016年7月10日(日)実施)



カトリヤンマの羽化

金目川生き物観察会

2016年8月6日(土)に、平塚市環境政策課と金目川水系流域ネットワーク主催の金目川観察会に参加してきました。今年は、同日開催の「こども環境教室～里山編～」に佳之介副園長が参加するため、まゆみ先生となお先生が参加しました。

当日の様子を聞いたところ、「やったー！つかまえたよ！」と子どもたちが喜ぶ笑顔が印象的でした、私たちも一緒に楽しんじゃいました！」とのことでした！



平岡ビオトープ親子観察会

2016年6月18日(土)に、平岡幼稚園ビオトープで親子観察会をしました。網を持ってトンボやチョウを捕まえたり、水の中の生き物を探したり、親子で生き物探しを楽しみました。この観察会で、平岡幼稚園では初めての記録となる“キマワリ的一种”も見つかり、園に棲む生き物リストに1種追加することができました。

園庭・原っぱの両池では、生き物が少なかったのが気がかりです。これまで安定して発生していたミズカマキリも見つかりませんでした。掃除をしても次々とウキクサが繁茂し、水面が隠れてしまうからでしょうか…？



みんなで見つけたサワガニの数当てゲーム☆



親子でサワガニ探し♪



チョウチョやトンボは傷まないように三角紙に入れたよ ^^♡

原っぱ池と園庭池の池干し作業

2016年7月18日(月祝)に園庭の池干し作業を実施しました。今年は、両池で羽化するトンボが少なく、6月の親子観察会でも池の中の生き物が少なめでした。その原因として考えられるのが、大繁茂してしまったウキクサです。掃除をしてもすぐに水面を覆いつくしてしまい、生き物が利用しづらい環境になっていたものと思われます。

参加者の皆さんと一緒に、大量のウキクサを除去しつつ、池の中の生き物を救出したのですが、見つかったのはオオシオカラトンボの幼虫、ゲンゴロウの一種の幼虫、イシビル等が僅かに見つかっただけでした。水を抜いた後、皆さんに水深の調整もしていただき、大変助かりました。ありがとうございました。

なお、時間の都合で7月18日の作業は園庭池のみで、原っぱ池は8月8日に実施しました。



作業前はこんな感じ→

ひらつか環境フェア2016

2016年7月23日(土)・24日(日)に実施されたひらつか環境フェアに参加しました。「平岡幼稚園の生物調査活動について」のパネル展示をしたほか、23日には環境教室「八幡山公園のセミのぬけがら調べ」を実施しました。八幡山公園に行って採集してきたぬけがらを仕分けて、公園内のどのあたりで、どんな種類が、どれくらい発生しているのか、を調べました。



パネル展示

平岡の森にて
ミンミンゼミとアブラゼミのぬけがら

平岡いきものはっけん隊のお約束

8月1日
平岡の森ビオトープ
こんちゅう池にて
オオシオカラトンボの羽化殻

① 持って帰るなら最後まで飼う、逃がすなら元の場所に！

人間の力で生き物を移動させることはできるだけ控えましょう。
どうしても時は、その生き物が自然の力で移動できる範囲内にとどめましょう。

② 安全第一！ 良好な自然環境ほど、危険も多くなります。安全第一をお願いします。 とは言えむやみに怖がる必要はありません。今号では今の時期に注意が必要な生き物の例を挙げておきます。（危ない生き物の代表例は春号に掲載しています）

！ ちがつかない

會田重道氏撮影



オオスズメバチ



マムシ



ヤマカガシ

☆ ハチのなかま

スズメバチ・アシナガバチ・ミツバチなど

成虫を見かけたらそーっとその場を離れましょう。手で払うなどすると危険です。刺激をしなければ刺されることはほとんどありません。

ただし、**巣に近づくのは非常に危険**です。絶対にやめましょう。

(※2016年10月現在、園内で社会性蜂の営巣は確認されていません。)

☆ ヘビ

マムシ・ヤマカガシには毒があります。

園内にはいませんが、丘陵地の草むらに入るときは、特に気を付けましょう。



コアシナガバチ



セグロアシナガバチ



フタモンアシナガバチの巣

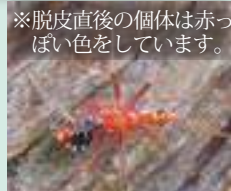
今の時期に注意が必要な生き物

！ さわらない



幼虫

(成虫期は5月ごろ)



※脱皮直後の個体は赤っぽい色をしています。

☆ ヨコツナサシガメ

手でつかむと、まれに鋭い口で刺されることがあります。毒はないものの非常に痛いので要注意です。



☆ マツモムシ

池などの水の中に生息しています。湘南地域では近年、減少傾向。

☆ 服装にも気を使しましょう



虫刺されなどを防ぐために、
長袖・長ズボンを着用しましょう。

自然の危険も大切な学びの一場面

～生きる力の源は、自然とのふれあいから～



私たちが生きていく上で必要な「生きる力*」、これを学ぶのに最適なのが「自然との関わり」です。自然は、私たちに様々な恵み・楽しみを与えてくれますが、危険もあります。その本質を知り、どのように行動すれば良いかを自ら判断し、最善の方法をとる、このような経験を重ねていくことは、今後の人生の様々な場面で生かされる貴重な財産となります。また、変化の激しいこれからの社会を生きる上で大切な資質の一つでもあります。

また、「自然」とのふれあいは「いのち」とのふれあいです。他にも、自然は思い通りにならないことで溢れています。自らを律し、協調し、思いやる心や感動する心など、豊かな人間性を育む上でも「自然とのふれあい」は重要なものです。

私たち大人は、子どもの安全を確保しつつ、様々な場面で子どもたちの大切な学習の場を作ってあげたいですね。(堀田)

*生きる力…これからの時代に(子どもたちに)求められる力(文部省)

ふしぎはっけん コラム

第2回 空に浮かぶ宝石！

彩雲のふしぎ

彩雲は、雲が虹色に輝く自然現象で、昔から吉兆の一つとされています。虹が雨粒によって発生するように、彩雲は雲の中の水分によって太陽光が回折して、雲が虹色に彩られます。時に自然は、私たちの生活の脅威にもなりますが、このような美しい姿も見せてくれます。

写真は、佳代先生が2016年8月18日に鳥根県益田市で撮影したもので、一緒にいた子どもたちも「きれいだね〜♪」「すごいね!!」と大喜びだったそうです。

自然には、まだまだ私たちの知らない面白いことがいっぱいあります！さまざまな自然の不思議、自然の神秘さ・美しさ・素晴らしさを、ぜひ探してみてください。もし見つけたら「はっけん隊」のみんなにも教えてくださいね。(堀田)

● 平岡の森ビオトープへ改称



平岡幼稚園研修センタービオトープの名称を「平岡の森ビオトープ」に変更します。センターは建物名、ビオトープは「平岡の森」として使い分けたいと思います。

はっけん隊からのお知らせ



● 「わかば環境 ISO」の特集に平岡幼稚園・はっけん隊の取り組みが紹介されました。

平塚市環境政策課が実施している「わかば環境 ISO」のH28年の特集に、平岡幼稚園が選ばれました。特集記事は、平塚市のホームページ（環境政策課）で閲覧できます。

● 「せせらぎ通信」に湘南自然誌が紹介されました。



金目川水系流域ネットワークが発行している「せせらぎ通信 46号」に、湘南自然誌が紹介されました。同団体のホームページでPDFファイルが閲覧できますので、ぜひご覧ください。

なお、「せせらぎ通信 40号」（2014年10月5日発行）には、平岡幼稚園の生物多様性保全の取り組みも紹介されています。

生き物の写真募集！

平岡いきものはっけん隊では、隊員の皆様から身近な生き物の写真と記録を募集しています。

発見場所・日時と写真を添えて下記メールアドレスまでお送り下さい。 ikimono@hiraoka-kg.com

あるいは平岡いきものはっけん隊掲示板へ投稿お願いします。

<http://6804.teacup.com/hakkentai/bbs/>

ありふれた昆虫・道端の植物、なんでもOK。種名が分からなくても構いません。佳之介先生などが調べて本誌に掲載していきます。

おえかきひろば

ひらおか幼稚園

絵画投稿コーナー

(表紙絵は投稿作の中から父母の会本部役員と教職員で選考しています。)



画：いとうれあちゃん
ふるおやれなちゃん
「だいすきなむし」



画：はまのさやかちゃん 「チヨウとはな」

こんちゅう・しょくぶつ
なんでも かいてみよう！
かけたらようちえんに
もってきてね

アブラゼミのぬげがら



画：にしざわはるくん
「ちょうとか」とんぼ」

クマゼミのぬげがら



画：はしもとれおなちゃん
「なつのもし」

平岡幼稚園の紹介

平塚市北部の伊勢原台地南端の麓に位置する我が園は、湧き水の染み出る台地の斜面や表土が残るなど、元々の自然環境が残されています。2009年より園地をビオトープ*にして、周囲に住む多様な生き物呼び込みながら、子どもたちと一緒に地域の自然環境を保全する活動を行っています。昭和42年開園、学園地総面積7,501㎡。 *ビオトープ…野生生物の生息環境

- 【受賞歴】2012年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2011「学校園庭ビオトープ奨励賞」受賞
2014年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2013「日本生態系協会賞」受賞
平岡幼稚園ビオトープが「関東・水と緑のネットワーク拠点100選」に選定される
2015年 生物多様性日本アワード 最終選考
2016年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2015「日本生態系協会賞」受賞

- 【主な研究・発表実績】
2015年 平塚市内のセミのぬげがら調査(2014年). 自然と文化, (38), 平塚市博物館:pp.33-46.
2016年 平塚市とその周辺地域のセミのぬげがら調査(2015年). 自然と文化, (39), 平塚市博物館:pp.41-59.
神奈川県西部(主として平塚市)のルゼミ調査. 自然と文化, (39), 平塚市博物館:pp.29-40.
神奈川県平塚市でミンミンゼミ赤色型を採集. Cicada,22(2), 日本セミの会:pp.40.

編集後記

まずは今号発行にあたり、特集記事を引き受けて下さった會田先生と、学術的に間違いがないか全編に渡り監修をして下さっている岸先生に感謝申し上げます。

本誌の編集も2号目となり手慣れてきた分、我々自身がこの冊子に求める内容とデザインの水準が上がり、なかなか入稿に踏み切れず…さらには入稿直前で掲載種が貴重な記録であることが発覚するなど嬉しい誤算もあり、発行が大変遅くなってしまいましたことをお詫びします。

園児や父母の皆さんの役に立つ冊子にすることはもちろん、園の外部でも認められる自然系情報誌にしていくため、着実に完成度をアップさせていくつもりです。

12月発行予定の秋の記録号もご期待下さい！

(富岡)